

学ぶとは。考えるとは。

Handai-Asahi 中之島塾

朝日カルチャーセンターとの共同講座。入会金は不要です。大阪大学の第4キャンパス、大阪大学中之島センターで開講します。知識を吸収しながら問題を発見し考察する力も養えます。

- 会場／大阪大学中之島センター（大阪市北区中之島 4-3-53）
- 定員／各講座により異なります。
- 申込先・問合せ先／
朝日カルチャーセンター TEL.06-6222-5224

■笑い与健康 ～笑ってストレス解消は本当か？

大平哲也（大阪大学大学院医学系研究科招へい教授
・福島県立医科大学教授）

5月10日（金）14:30～16:00
5月24日（金）14:30～16:00
受講料 3,150円（全2回）

笑いが健康によいことは経験的に知られていますが、科学的根拠はあるのでしょうか？「大人は一日平均どのくらい笑っているの？」「大阪のおばちゃんは本当によく笑うのか？」から、笑いと糖尿病、高血圧、がんなどの生活習慣病との関係、うつ・認知症予防への効果など、笑い与健康に関する様々な研究の最新情報を紹介します。また、誰でもできる日常生活において笑いを増やす方法、笑いを生かした効果的なストレス解消法について解説します。笑いヨガなど新しい健康法を体験してもらい、笑いの効果を実感できる参加体験型の講義を行います。

■大阪弁ぼちぼち講座 ～大阪弁とオノマトペ

金水敏（大阪大学大学院文学研究科教授）
5月20日（月）13:30～15:00
受講料 1,575円

「ここダーッとまっすぐ行って、どんと当たったことをキュッと右に曲がって……」大阪人は、道を聞かれるとよくこんな表現をします。「どん」とか「キュッ」とかのような、もの様子や音声を描写することをオノマトペと言いますが、大阪人は、会話の中でことのほかオノマトペを多用する傾向があるようです。それはなぜでしょうか？大阪弁の言語的特徴、大阪人の気質と何か関係が？そもそも言語にとってオノマトペとは何？こんなことを、いろいろな実例をみながら、ぼちぼち考えます。

■おもしろ日本語学

～配慮の表現=「みたいな」で止める表現

小矢野哲夫（大阪大学大学院言語文化研究科教授）
6月7日（金）13:30～15:00
受講料 1,575円

平成11年度の国語に関する世論調査で「ほかす言い方、自信のない言い方」と位置づけられた「とても良かったかな、みたいな……」（と言って相手の反応を見る）という表現。批判的な意見を聞くことがあります。調査から10年以上経過しました。現在、このような表現を、本当にほかすために使っているのでしょうか。自信のない言い方だと言えるのでしょうか。どうもそうとは言えない印象を持ちます。では、どう理解したらよいのでしょうか。対人コミュニケーションにおいて聞き手に対して配慮した表現という観点からきちんと説明し、正当な位置づけを試みます。

■古代語の謎を解く

蜂矢真郷（大阪大学名誉教授・中部大学教授）
6月22日（土）13:30～15:00
受講料 1,575円

日本の古代のことばについて、形や意味を変えたりもしながら現代でも用いられているものを中心に、その語の成り立ちや由来を考えます。あまり根拠のない語源説のようなものではなく、国語学の、語構成を研究する立場から、いろんな語の表すところに迫ります。多くの語を合わせて比べてみると分かってくることもあります。分かりにくいことに迫る時には謎解きのようなおもしろさが、その由来に迫る時にはルーツを探るようなおもしろさがあるでしょう。（取り上げることばは毎回変わります）

ネットからのお申込みも可。

Handai-Asahi 中之島塾 検索

会社帰りにちょっと寄り道。ラボカフェ

参加者が自由な議論を行う対話型プログラムです。

- 会場／アートエリア B1（京阪中之島線なにわ橋駅地下1F コンコース）
- 定員／各回により異なります。（当日先着順・入退場自由）
- 問合せ先／大阪大学コミュニケーションデザイン・センター
TEL.06-6850-6632 cscd@office.osaka-u.ac.jp

参加費
無料

■中之島哲学コレクション／アートと私たちを考える3

「アートとケアの気になる関係1」

4月3日（水）19:00～21:00

〈ケア〉に対してアートは一体どのように関わることができる／できないのでしょうか。連続企画の今回は、福祉施設などで実際に作品を制作するプロジェクトに取り組んでおられる「HAPii+Jr」のメンバーをお迎えし、現場での経験や葛藤を伺うところから、改めて気になるアートとケアの関係について考えます。定員50名程度。

ゲスト／伊藤飛鳥、島田紗希（HAPii+Jr プロジェクト）
／京都造形芸術大学子ども芸術学科） 進行／荻野亮一（大阪大学大学院文学研究科院生） カフェマスター／本間直樹（大阪大学 CSCD 教員） 共催／カフェフィロ

■シリーズ：ポスト3・11の科学技術社会論『ポスト3・11の科学と「社会的なもの』

4月13日（土）14:00～17:00

東日本大震災は私たちに多くの問題を投げかけました。なぜこれほどまでに被害が拡大したのか？そもそも被害とは何だったのか？ コミュニティは、そして社会は、いかに再生しうるのか？ 科学技術と今後どう向き合っていけばいいのか？ 本年1月に出版された『ポスト3・11の科学と政治』と『社会的なもののために』の著者たちが、ポスト3・11の科学と「社会的なもの」をめぐる徹底的な議論します。定員50名程度。
ゲスト／宇城輝人（福井県立大学准教授）、小田川大典（岡山大学教授）、前川真行（大阪府立大学准教授）、神里達博（大阪大学 CSCD 教員）、標葉隆馬（総合研究大学院大学助教）、平川秀幸（大阪大学 CSCD 教員）

■高齢者の高血圧

～主治医に聞けないホンネに向き合う

柴木宏実（大阪大学大学院医学系研究科教授）
6月29日（土）10:30～12:00
受講料 1,575円

70歳以上の7割以上は高血圧ですが、その3割以上は高血圧の薬を飲んでいない状況です。80歳以上でも降圧治療により脳卒中や心不全の発症を減らすことができます。では、なぜ治療を受けていない人がこんなに多いのか。降圧薬を飲んでいても血圧が十分下がっていない方も沢山いらっしゃいます。「私は薄口しか食べないのに…」、「どこも悪くないのにどうして薬がいるの」、「一生飲まなきゃいけないならまだ飲みたくない」、「薬を飲むと調子が悪い」、「ふらつくんだけど…」などなど、患者さんのホンネにお答えするとともに、高齢者に特有の病気の特徴、高血圧と上手に付き合うコツについて解説します。

■先端医学と漢方の融合をめざす 「なにわ漢方」について

萩原圭祐（大阪大学大学院医学系研究科准教授）
6月29日（土）14:00～15:30
受講料 1,575円

大阪には、道修町を本社とする製薬メーカーが多数存在しますが、その流れは、8代將軍吉宗の時代にまでさかのぼることができます。北山友松子や永富独喃庵など大阪にゆかりの深い漢方医を紹介し、その流れが、緒方洪庵の適塾にもつながっていることを解説していきます。上方の医学の歴史を俯瞰的に眺めると、大阪には、実証的、実践的な医学の歴史背景が存在し、その流れは、大阪大学故山村雄一先生（元大阪総長）の指導のもと行われた漢方医学の生化学的研究にもつながっています。現在、大阪大学漢方医学寄附講座では先端医学と漢方医学の融合治療「なにわ漢方」を提唱しており、その実際例についても解説していきます。

カフェマスター／市野川容孝（東京大学教授）、中村征樹（大阪大学准教授）、八木絵香（大阪大学 CSCD 教員） 主催／「ポスト3・11の科学技術社会論」研究会、「社会的なもの思想史」研究会 協力／ナカニシヤ出版

■ラボカフェスペシャル 「アメリカン・ミュージックの歴史

～バンジョーの誕生と発達とともに～」

4月14日（日）
14:00～16:00 ワークショップ(有料)
(5,000円、学生1,000円学生証提示、会場内定員有)
17:00～18:30 トークコンサート(無料)
(無料、60名程度、当日先着順)

黒人文化と白人文化の融合から生まれた唯一のアメリカ民俗楽器といわれるバンジョーは、19世紀前半に

共通テーマで大阪と京都を掘り下げる。

大阪・京都文化講座

2013年度前期

大阪大学 21世紀懐徳堂と、立命館大学文学部・立命館大阪オフィスの共催講座。大阪・京都の自然・風土・地誌・都市空間について考え、今後の課題・問題点についても提起します。

災害・戦災の歴史 — その教訓に学ぶ

■古代の天災

本郷真紹（立命館大学文学部教授）
5月20日（月）14:00～15:40
受講料 1,500円

奈良・平安時代に生じた天災は、人々の生活に甚大な被害をもたらし飢饉を誘発したばかりでなく、為政者をも震撼させ、さまざまな手立でが講じられた。天災のもたらす思想面での影響を検証し、併せてその対策として展開された政策の意義について検討を試みます。

■日本古代の災異と復興

市大樹（大阪大学大学院文学研究科准教授）
5月27日（月）14:00～15:40
受講料 1,500円

数々の災異に見舞われた古代の日本。そのとき、国家はいかなる対応を、どのようにして復興を遂げていったのか。この問題について、天平9年（737）の疫病大流行、貞観11年（869）の貞観大地震を素材にして具体的に考えてみたい。

■室町期京都の都市社会 — 災害・飢饉をめぐる —

三枝暎子（立命館大学文学部准教授）
6月3日（月）14:00～15:40
受講料 1,500円

金閣・銀閣に象徴される室町文化の栄えた時代、京都は洪水や大風・地震をはじめとする様々な災害にみまわれるばかりでなく、飢饉にあえぐ人々の押し寄せる場となった。こうした災害や飢饉によって浮かび上がる、都市社会の実像に迫りたい。

■源平合戦と源頼朝の復興政策

川合康（大阪大学大学院文学研究科教授）
6月10日（月）14:00～15:40
受講料 1,500円

本講演は、治承・寿永内乱期の戦争（源平合戦）をとりあげ、当時の戦争の実態を、文献史料や軍記物、考古学の発掘成果などから解明するとともに、戦争を勝ち抜いた源頼朝の鎌倉幕府権力が、どのような戦後処理・復興政策を展開していったのかを考察する。

■災害対応の歴史—近世と近代

北原系子（前立命館大学歴史都市防災研究センター教授）
6月17日（月）14:00～15:40
受講料 1,500円

突発的に発生する自然災害に対して、近世の社会的対応と近代社会の対応ではどのような変化がみられたのだろうか。あるいは、どのような点が変わらずに社会的伝統として息づいていたのだろうか。幕末の災害多発期と都市化した近代社会の具体的事例を元に考える。

■江戸時代上方地域の治水システム

村田路人（大阪大学大学院文学研究科教授）
6月24日（月）14:00～15:40
受講料 1,500円

江戸時代、幕府は上方地域に対して高度な治水システムを構築していた。とりわけ、淀川・大和川などの大河川の堤防維持システムには見るべきものがあった。今回は大河川の堤防維持システムの構築過程とその変化に焦点をあて、上方地域の治水システムを紹介したい。

受講申込書はネットからも。

大阪・京都文化講座 検索

2013年5月以降の予定は随時HPに掲載。

ラボカフェ CSCD 検索

■中之島哲学コレクション／オープンミーティング「お産を考える」

4月24日（水）19:00～21:00

多様な出産のスタイル、「産む（産まない）、つくる」という言葉で語られる社会のあり方、科学技術がもたらす生命観の変容・・・お産をめぐるあれこれについて語り合いながら、お産の何を考えたいかを考えます。出産の経験ある方もない方も、性別を問わず関心のある方ならどなたでも参加できます。定員50名程度。ゲスト／千田満佐子（日本妊産婦支援協議会りんごの木）進行／八木絵香（大阪大学 CSCD 教員）、松川絵里（大阪大学 CSCD 特任研究員） カフェマスター／本間直樹（大阪大学 CSCD 教員） 共催／カフェフィロ

●主催／アートエリア B1【大阪大学+NPO法人ダンスボックス+京阪電気鉄道（株）】 ●共催／大阪大学 21世紀懐徳堂 ●企画制作／大阪大学 コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）、NPO法人ダンスボックス ●協力／NPO法人 recip【地域文化に関する情報とプロジェクト】

■近代京都の防災思想・技術・システムとその変容

山崎有恒（立命館大学文学部教授）
7月1日（月）14:00～15:40
受講料 1,500円

自然災害との「共生」を選んできた日本人は、近代科学文明の導入の中で、その考え方をどのように変化したのか。その変化は防災システムや防災技術にどのような影響を与えたのか。『京都日出新聞』の紙面から変化を浮かび上がらせるとともに、今後の防災の在り方について考えたい。

■大阪における防空と都市計画

飯塚一幸（大阪大学大学院文学研究科教授）
7月8日（月）14:00～15:40
受講料 1,500円

空襲に対処するための防空は、広く知られている学童疎開だけでなく、防空緑地の整備や建物疎開などへとつながっていった。市民生活にそれほどの影響を及ぼした防空を通じて、戦争が大阪を形作っていく様子を論じてみたい。



大阪大学 21世紀懐徳堂の
メールリストに
登録しませんか？

●●●●●●●●●●
大阪大学 21世紀懐徳堂は、市民の方を対象にした各種講座やシンポジウム等を開催しています。また、大阪大学の各学部・部局等が取り組んでいる公開講座・セミナー等の支援も行っていきます。これらの催し(社会学連携事業)を月に2〜3回程度お知らせする「21世紀懐徳堂メールマガジン」の配信を希望される方は、件名を「メールマガジン配信希望」として、お名前(フリガナ)とアドレス(パソコンアドレスをおすすめします)を下記へお知らせください。

info@21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp

※いただいた情報は、この目的にのみ使用します。

大阪大学の公開講座、イベント情報などをメールでお知らせします！